平成 28 年 2 月 7 日

北海道新聞掲載

田原4季ぶり3位

エアリアル

着地集中 五輪へ一歩

W杯スキー

【ディアバレー（米ユタ州）共同】フリースタイルスキーは5日、米ユタ州ディアバレーでエアリアルが行われ、男子の田原直哉（ミルキーウェイ）が2012年1月の自己最高に並ぶ3位に入り、4シーズンぶり2度目の表彰台に立った。南隆徳（美深エアフォース）は予選27位で、上位12人による決勝に進めなかった。

男子はピョートル・メドゥリチ（ロシア）がW杯初優勝し、日本勢が出場していない女子は張鑫（中国）が2季ぶりとなる通算4勝目を挙げた。

35歳になった日本の第一人者の田原が4年ぶりで表彰台に返り咲いた。3位に食い込み、「素直にうれしい。今回は力で勝ち取ったイメージが強い」と実感を込めた。

12人の決勝1回目は118・14点の6位で、上位6人による2回目にぎりぎりで進出。2回目は3回転4回ひねりの大技で着地を決め、自己新記録という123・53点。「空中（への意識）は7割ぐらいにして、着地に集中している」という今季。全体の完成度でW杯優勝経験のあるカナダ勢を抑え、「きれいにまとめられた」と喜んだ。

日本代表として活躍した体操からエアリアルに転向して10年弱。日本の競技環境は厳しく、ここ2大会の五輪には派遣なし。田原の今季の遠征は全て自費。長野県の旅館でアルバイトし、寄付を募って活動費を捻出している。

それだけに、「サポートしてくれる人がたくさんいる。五輪で戦いたい」との思いは強い。「年々、スキルアップしている感じ。まだまだいける」。2年後の平昌五輪に向け、確かなステップとなった。（時事）

フリースタイルスキーW杯男子エアリアルで3位に入った田原直哉＝ディアバレー（AP＝共同）